

# mini shoulder strap bag kit

## RAFFIA ?

ラフィアはラフィア椰子の葉から採れる天然繊維、軽く丈夫です。

その柔らかな繊維をかぎ針で編んだり、コイリングしたりと様々な技法でバッグや帽子が作られています、繊維1本1本をブレード状に編んだバッグや帽子はとても丈夫、未永く使えるものになります。

使うほどに樹脂によって艶と柔らかさが増す魅力的な素材『ラフィア』でミニバッグを作りましょう。

## KIT



ラフィアブレード  
&  
とじ用ラフィア



カバー&ベルト  
(裏側にマスキングテープ)



ショルダーストラップ  
&  
レザーワッシャ  
&  
ハンドル



とじ針&ギボシ金具

## はじめに



表面



裏面



とじ用  
ラフィア

短くなったら



こちら側を見ながら時計回り  
にとじていくイメージです

バッグの内側になる面です。  
(ブレードの編始めの部分が  
裏面の目印です)

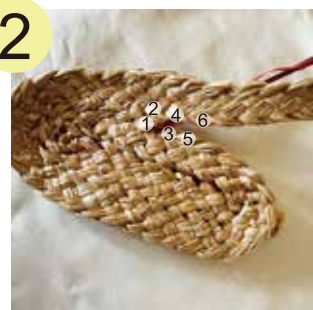
ひとつ結びで繋ぐ  
(ご存知の方はハタ結び)  
わかりやすくする為、  
赤色のラフィアを使用します

○印の部分を「目」と読んで  
説明していきます

## START



1



2

2 4 6  
1 3 5

とじ針でとじていきます。1のように目は必ず下からすく  
います。すでにとじられている方を下の段、これからとじ  
る方を上の段と呼び説明します。基本的には2のように上  
の段、下の段の向かい合う目を交互に拾いとじていきます。  
ただ、底部は平らにする必要がある為、上の段を適宜拾わ  
ずに飛ばす必要がある部分があります。

平らなところに底部を置いてどの目とどの目をとじると平  
らになるか確かめるようにするとわかりやすいです。



3



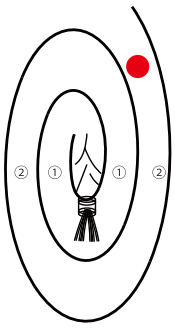
4

3は●の目を飛ばしています。

底部は楕円形ですので、長軸の直線部分以外のカーブの部  
分では、上の段の目を飛ばさずにとじていくと、4のよう  
に平らではなく、立ち上がってきてしまいます。

※平らにするために飛ばすのは上の段です。

5



裏面 (バッグ内側)

裏面を見て、ブレードの編み始めを中心に2周とじたところで立ち上げます。

●印が2周(ブレードの編み始めを時計の6時の方向にしたときに2時のあたりです)。マーカーが目印です。

表面を見ながら直角に立ち上げるようにして、上の段、下の段と交互に目を飛ばさずにとじ進みます。ある程度の力でしっかりととじることにより、とじ用のラフィアは見えなくなります(力加減の目安)。1周立ち上げたところ(写真7)。

そのままあと4周とじ進めます。ブレードの際の目までとじたら、軽く内側に隠すようにして、3~4回巻き止めます(写真8、9)。※とじる力加減などにより、終わりの位置には個人差がでます。とじ用のラフィアは3~4目かご本体に縫い付けて、内側に出たところでカットし、ブレードをとじる工程は終了です。

6



7



8



9



10



11



12



13



とじ針にラフィアを通し、カバーを本体に縫い付けます。クリップなどでカバーを付ける位置を仮止めするといでしょう(写真11)。縫い始めはバッグの裏側からとじ針を通します。この時、裏側に5~6cmラフィアを残し、1cm程度縫うように2往復し、裏側に残したラフィアで2回固結びします。カバーの縫い穴に沿って縫い付け、最後の穴は返し縫いにしておくといでしょう。最後は2~3針目立たないところに縫い進め内側でカットします。

14



15



16





17



18



19



20



21



ギボシ金具を付けます。ギボシの下部をレザーワッシャに通します（写真17）

位置を決め、バッグの裏側から出し、ギボシ上部を取付けます。ベルトの穴に切れ込みが入っている方が、バッグを開け閉めする際の穴になります。

裏からギボシが少しだけしか出ないこともありますが、ギボシ上部をグイッと入れ込むようにネジの要領でしめます。

22



23



カバーの穴からハンドルを通し内側でぐるりと結びます。

ショルダーはレザーワッシャに通してから同じく内側で結びましょう。

完成!!

